

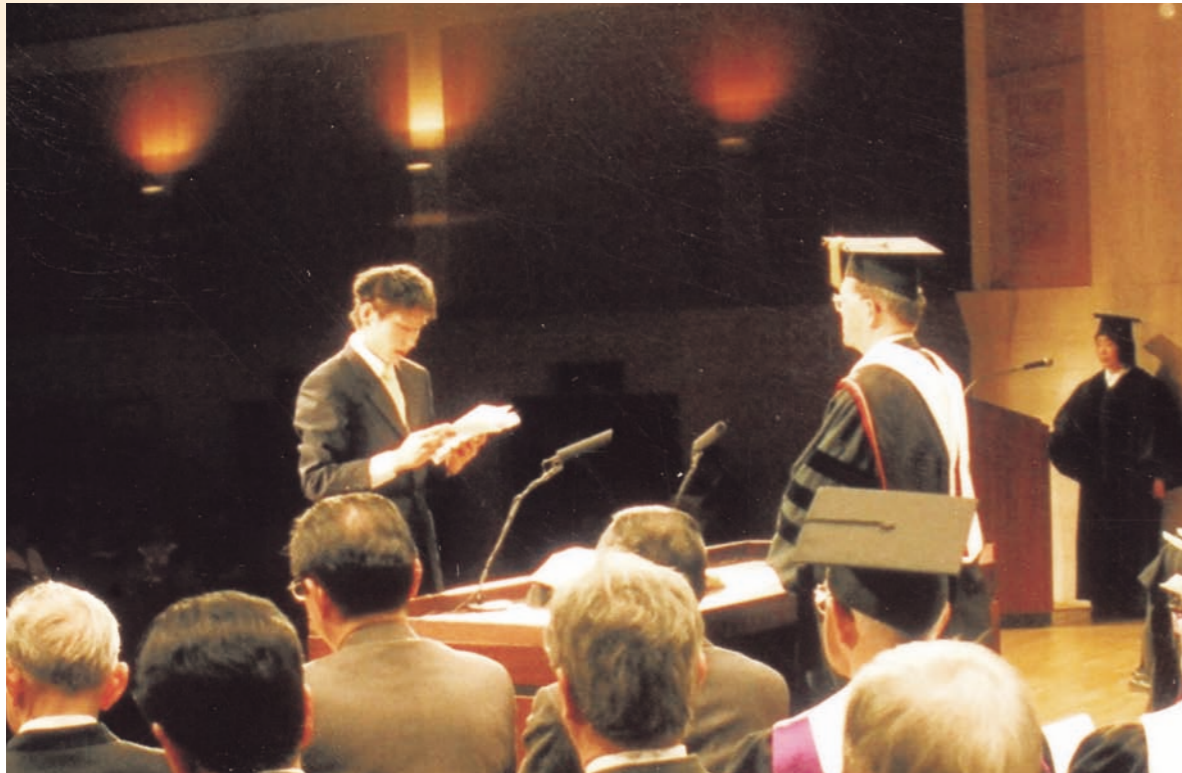
KEIWA COLLEGE REPORT

第 46 号

April 2006

敬和カレッジ・レポート

発行/敬和学園大学後援会
敬和学園大学広報委員会



第12回卒業式 答辞

CLOSE UP

「貴志川のミカン」 学長 新井 明

キャンパス・ソングとキャラクターができました

第12回卒業式のご報告/卒業生からのメッセージ

教職課程の4年間を振り返って/卒業論文発表会

退職された教員からのお別れメッセージ

オープン・カレッジと科目等履修生のご案内

学内合同企業説明会のご報告

2006

KEIWA

COLLEGE REPORT

April 2006

発行所/敬和学園大学 〒957-8585 新潟県新潟市東区1270番地
印刷所/オリオン印刷 新潟市南出来島1丁目19番地1号 TEL.025-283-2151

KEIWA チャレンジ学生ファイル⑭



英語英米文学科卒業

長澤 千亜里

『本当の夢との出会い』

右が長澤さん

高校生の時は「アメリカ」と「英語」に憧れて、いつかはアメリカに住みたいとずっと夢を見ていました。しかし、ある時「英語はコミュニケーションをするための手段にしかすぎない。“+α”を見つけなさい。」とある先生からアドバイスをいただきました。当時はそれが理解できず、平手打ちされたような気持ちになったのを覚えています。その後、大学の夏期留学に参加し、英語を話せることが当たり前のおかたに、その言葉の意味を理解しました。それから、私は何をしたいのか、私に何ができるのかを探し始めました。

そんな時、ある自動車販売会社のミスに選ばれたことがきっかけで、雑誌やテレビ・コマーシャル、ラジオ出演などのお仕事をさせていただく機会に恵まれました。それから1年が過ぎたころ、ラジオ番組のパーソナリティを任されることになりました。そのころちょうど、大学でアメリカの歴史と音楽の密接な関係について学んでいました。もともとオールディーズやブルース、とにかくアメリカの古い音楽が大好きだったのですが、それがこんなにもアメリカの歴史と関係しているなんて!!と感動し、ラジオ番組では、そんな1曲を選んで歌手のプロフィールとその時代背景を紹介していきました。

その時にお世話になった方の提案で、東京で行われたDJコンテストに出場し、入賞することができました。これがきっかけで、本格的にラジオのパーソナリティになるという自分のゴールが見えてきました。大学卒業後は、アメリカのラジオスタイルと音楽の歴史について勉強するために、夢と共にアメリカに旅立ちます。



敬和学園大学
www.keiwa-c.ac.jp



ケーワイ付



去る3月17日(金)、卒業式の終了後、ホテル新潟に会場をうつし、卒業生主催の盛大な「卒業謝恩会2005」が行われました。この謝恩会は今年社会に巣立つ卒業生が公私ともに支えてくださった方々への感謝を表すもので、本学後援会の協力をいただき、毎年実施しているものです。今年も、できたばかりのキャンパス・ソング「光さす路」を、作詞・作曲の勝又圭介さん(5期生)によるピアノ演奏にあわせて、卒業生の長澤千亜里さんが歌い、卒業生一同大いに盛り上がりました。



貴志川のミカン

学長 新井 明



●地力のある畑で

秋になりますと、和歌山県貴志川(きしがわ)の友人からミカンが送られてきます。かんきつ類の栽培を四百年もやっているという、いわゆる紀州ミカンの家柄です。箱を開けてみますと、中からは小ささまざまなミカンが顔を出します。ワックスはいっさいかけてないので、ごく自然のままの皮です。つまりピカピカ光ってなどいけません。手紙が入っています。「ミカンは呼吸をしていますので、いちど全部箱から出して、新鮮な空気にふれさせて、長旅の疲れをほぐしてやってください。」

土を肥やすためには、どしどし化学肥料を投入するのが、今どきの農業の常識です。雑草を除去するためには除草剤をまき、害

虫を払いのけるのには殺虫剤を振りかけます。皆さんは、農作業をする人びとが防毒マスクをしている姿を見たことがありませんか。

貴志川のこの友人は、しかし、常識(?)とは反対に、化学薬品はごく少量をのぞいては使用しません。人の健康に悪いものを、いかに生産効率がいいからといって、使うことは良心に反する、というのです。収穫前後の防腐剤や出荷時のワックスがけもしません。かれの作ったミカンにはテカツ!とひかる光沢はありませんが、そのかわりその皮をサラダ、マーメイド、入浴剤などに活用することができます。安全なので、自然のままのものに無駄はありません。この友人の話によりますと、防虫のための最強力の手段は、ミカンが根をはる畑に地力(ちりょく)をつけてやることだといえます。その地力をつけるために、かれは畑に(化学肥料ではなく)魚粉をあたえています。(この友人の祖先は、かつては北海道のニシンを、ミカンのための主肥料としていたといえます。)地力のついた畑でできたミカンは見たところはテカテカと光ってはいませんが、安全で、じつにいい味なのです。また、ひとつ箱のなかでの大小混在の姿がいいではありませんか。



自然のままに育ったミカン

●「呼吸する」人格を育てる

毎年、秋の収穫の季節がきまして、このミカンが着くころになりますと、わたしは考えます。このミカンづくりの友人はわたしに教育のあり方を教えてくれているのではないかと。大学の教育において最も重要なことは、育ちゆく若者たちが真の「地力(ちりょく)」を宿す大地のただなかで育つてもらうことです。その「地力ある」大地に根をしっかりと張ってもらうことです。そして、自らが「地力」を有する人格に育つてゆくことです。経済界の求める効率とか、社会の求める「冒険(あまば)」、「「外見」などは考慮せずともよろしい。人間の持つて生まれた人格、個性を尊重することが第一です。若い個人にこの世であたえられた人格と価値を、自由に育つてい

もくじ

CLOSE UP「貴志川のミカン」学長 新井 明 … 1	退職された教員からのメッセージ ……10
キャンパス・ソングとキャラクターができました … 4	2006年度オープン・カレッジのご案内 …11
第12回卒業式と卒業謝恩会のご報告 … 6	2006年度科目等履修生・研究生のご案内 …11
卒業生からのメッセージ ……7	学内合同企業説明会のご報告 ……12
教職課程の4年間を振り返って ……8	寄付者ご芳名 ……12
長期留学体験記(ノースウェスタン大学) … 8	学事予告 ……12
英語英米文学科 卒業論文発表会 ……9	キャンパス日誌 ……13

<表紙写真>「第12回卒業式 答辞」
卒業生代表の二村さんが力強く答辞を述べました。(P.6)

てもらうことです。

国や社会や産業界は、その思うように、若者たちの人生を使いたいので、かれらの将来をその方向へと曲げてゆこうとする。そんな教育は本当の教育ではありません。わたしたちは皆さんが、妙な偏見をかぶせられたりせずに、優れた「地力」から優れた栄養をとって、素直に育っていつてほしいのです。そしてそれぞれの実をつけていただきたい。大きい実があつていい。小さい実があつていい。人の目につくようにと、特殊なコーティングをかけてピカピカした外観を作り上げることはありません。自然のままに、しかし豊かに育った果実どうしが、共生している姿が尊いのです。ひとつひとつが、形は異なつていても、しっかりと「呼吸する」ミカンであつてほしいのです。



春には「お花見会」を実施しました

●「普通教育」

今年日本が太平洋戦争に敗れて、満五年です。いろいろなことが言われております。いずれにせよ、戦争に負けたということは、大きなことでした。日本にとって、かつてなかったことでした。その経緯をへて、新しい憲法が決められ、主権が天皇に、ではなく、主権は国民にある新国家が成立したのでした。それとともに、新しく教育基本法というものが制定されました。一人ひとりのうちに芽生えたものが大きく育ち、それぞれ花開くことを願うものです。真理と正義を愛し、一人ひとりのかけがえのない価値を大切にしようとする人が育つこと。それがなによりも大事なのです。戦争目的のために、青年たちを育てるという教育方針が、ここで負けたのでした。あの十五年戦争に敗れるという事実がなければ、大日本帝国の教育方針はそのまますたつづけたことでしょう。敗戦は、じつに大きなことであつたわけでは。

ところで、敗戦後の日本に教育にかんする新しい考え方をもち込んだのは、「米國教育使節団」でありました。かれらが言いましたのは、「知的自由」「思想の自由」を保障する教育環境がなくてはならない、ということでした。そして、日本では職業的・技術的・専門的教育が中心だが、これからはそれに代わつて「普通教育」、とくに「人文学的態度を養成」するべきだ、と強調しました。この勧告の内容が、新しい教育基本法の精神として生きてくるのです。(ただし、アメリカ側から一方的に強制されて、この基本法が出来上がったのではある



学生、科目等履修生、教員のみんでハロウィン

●敬和学園大学の目指すもの

敬和学園大学は新潟県下では、ごく珍しいことに「自由高等教育」を掲げて、この十五年を歩んできた学園です。企業の即戦力を大学に求める風潮に反対です。その風潮は若い世代にたいする冒険です。(一流の企業家は大学の卒業生が「即戦力」などになれないことを、よくよく承知しております。広い教養を身につけた若者の登場を求めています。「即戦力」などという言葉をお口にする評論家、企業家の類は、つまり一流ではないのです。)広い領域への理解をもつ若者たちのほうが、時間をかければ、より良い仕事を果たすにいたることを、一流の人士は承知しているのです。卒業生たちは、在学中には思いもおよばなかった各方面に自らの居場所を見つけて働いています。

『暮しの手帖』という雑誌があります。その表紙裏に一編の詩—わたしがよく引用する詩なのですが—が載っています。「すぐには役に立たないように見えても／やがてこころの底ふかく沈んで／いつかあなたの暮らし方を変えてしまふ／そんなふうな／これは あなたの暮しの手帖です」

大学教育のことを考える際にも、多くのことを語ってくれる詩文です。新奇な、便利な、効率のいい、もの珍しく、てかてかしたものの—そのようなモノ、そのようなヒトが、ひとの心に真の幸せを送り込むものでしょうか。人格尊重の教育—真の「地力」たるもの—を吸収した幼木は、それがたとえ「すぐには役に立たないように見えても」、「やがて」は害虫など寄せ



チャペルが終わると、学生と握手します。Peace be with you!

つけない強固な樹木に成長し、世のため、人のためになつてくれるものなのです。

本稿は新潟県大学入試専門委員会発行『D2通信』第三号(二〇〇五年八月)に掲載されたものであるが、同委員会の許可を得て、ここに転載する。加筆部分がある。

最近学長室を訪問された方々の中から アマチュア無線ARRDF国際選手権

三月八日夕刻、阿賀野高校の佐藤久先生のご訪問があり、アマチュア無線ARRDF国際選手権にて中村義実助教授のゼミ生を中心に十六名の本学学生がボランティアとして働いたことに対して、日本アマチュア無線連盟からの感謝状が新井学長に手渡されました。この大会は、昨年九月に五頭温泉郷を舞台に五日間に渡り開催され、中国・韓国・アメリカ・ロシア・モンゴル・タイら九カ国八十一人の選手が集結しました。佐藤先生は、同大会実行委員として大会運営の重要な役割を果たされました。

参加学生は、競技のお手伝いのみならず、観光や親睦パーティーなどを通して、選手との交流を深めました。「あんなにたくさんの方々と会話したのは初めて」「一つの国の文化や特徴が見えて楽しかった」「英語を楽しく気軽に話せていたので嬉しかった」等、学生たちは口々に参加の喜びを語っていました。この大会でお世話になった方々に感謝申し上げます。

キャンパス・ソング とキャラクター

敬和学園大学キャンパスソング

光さす路

作詞・作曲 勝又圭介

光 さす この路 を 見つめる瞳 には
いつの日も 温 かく あなたが映 っ て 見あ
げる空 星 の またたき に 想
いを込 め 歩 んだ いっ
つ
でも
過ぎてゆく 日々の中 で 心 満たされる
伝えたい 言葉 今 も あ の 星 に
微 笑 んで
明けてゆく 日にむかい たたずむこの胸 に
こみあげる 想 い今 あなたに微 笑む



敬和学園大学の創立十五周年を記念し、地域のみなさまに愛着と親しみをもっていただけのようにと、本学のイメージに合わせたキャラクターを作成しました。どういったキャラクターにするのか、動物・植物・果物：、様々なアイデアが出された中で、ふくろうを使うことに決まりました。知的で、三六〇度見渡せる広い視野を持つというふくろうの特徴と、様々な学問を幅広く学んでいくという本学のリベラルアーツの精神が合致したのです。デザインは、イラストが得意な学生の内山聖子さん（二〇〇五年度英語英米文学科卒業）に依頼し、様々な試作と何度も調整を経て、今の図案が決定しました。このふくろうは、内山さんと同じ十二月二十四日生まれです。まだ名前はありますが、本学とともに地域のみなさまに育てていただければと思っています。どうぞよろしくお願いします。（広報委員会）

キャンパス・ソング「光さす路」とキャラクターができました

学生・教職員全員がこれからずっと共有できるもの感じられるようななにかが創れたら、という広報委に卒業生と在学生（当時）の力で実を結びました。

一つは敬和キャンパス・ソング、「光さす路」で、キャンパス・ソングは勝又圭介さん（1998年度英語月13日のチャペル・アッセンブリー・アワーに、勝又の長澤千亜里さんの歌で披露されました。「こころに生の感想も寄せられています。

キャラクターはこの3月に英語英米文学科を卒業させて欲しい」という作者の希望です。いい名前があり

1. 光さす この路を 見つめる瞳には
いつの日も 温かく あなたが映って
見あげる 空星の またたきに
想いを込め歩んだ いっつも
過ぎてゆく日々の中で 心 満たされる
伝えたい 言葉 今も あ の 星 に 微笑んで
2. 離れゆく あの路を 見つめる瞳には
今日の日の 温かい あなたが映って
見つめる 海波の しずかさに
想いをたくしていた いっつも
めぐりゆく日々の中で 心 満たされる
伝えたい 言葉 今も あ の 海 に 微笑んで

明けてゆく 日にむかい たたずむ この胸に
こみあげる 想い 今 あなたに 微笑む

名なごのふくろうちゃん

敬和学園大学の創立十五周年を記念し、地域のみなさまに愛着と親しみをもっていただけのようにと、本学のイメージに合わせたキャラクターを作成しました。

どういったキャラクターにするのか、動物・植物・果物：、様々なアイデアが出された中で、ふくろうを使うことに決まりました。知的で、三六〇度見渡せる広い視野を持つというふくろうの特徴と、様々な学問を幅広く学んでいくという本学のリベラルアーツの精神が合致したのです。

デザインは、イラストが得意な学生の内山聖子さん（二〇〇五年度英語英米文学科卒業）に依頼し、様々な試作と何度も調整を経て、今の図案が決定しました。

このふくろうは、内山さんと同じ十二月二十四日生まれです。まだ名前はありますが、本学とともに地域のみなさまに育てていただければと思っています。どうぞよろしくお願いします。（広報委員会）

キャンパス・ソング とキャラクター

All the young DUDES!

一九九八年度卒業

勝又 圭介



「あ、今日がやんちゃ理由があつたのね。」

そのころ僕は、部室でギターを弾いていた。隣にはドラムを叩く先輩とベースを弾く先輩、なにやら煙草を吸い、轟音の中うづらな瞳を彷徨わせている三年生がいた。他の学生が授業を受けている中、ギターに飽きた僕は先輩と網代浜に出かけた。少し肌寒い中、気合の入ったサーファーと犬と散歩中のおじさん、何日前の花火の残骸と流木が折り重なって一つの完成された

—温かく、親しみがあり、しかも日常的にその存在が委員会の以前からの願いが、本学創立15周年という節目

もう一つは敬和キャラクターのふくろうです。英米文学科卒業）の作詞・作曲によるもので、本年1さんご自身のピアノ伴奏と英語英米文学科4年生（当時）すつと入ってきて、温かい気持ちになれた」という学

れた内山聖子さんの作品です。「みなさんで名前を考ましたらお知らせください。

様々な先生方がこのような僕の日常をご存知であり、しかも認めてくださっていた。こんな僕を優しく見守ってくださいました。今となっては足を向けて寝ることさえできないと心の底から思うが、当時はただ時に身を任せていた。それでも、自分が選択したひとつひとつの行動に、自分なりの小さな責任を持っていた。自分を磨き、無我夢中で進んでいた。方向は全く定まらなかつたが、ただただ突き進んだ。先生方に向まなく巻き込まれ、大学に支えられ、ひたすら自由奔放な学生生活を謳歌していた。圧倒的な存在感と人間力を持った先輩や友人に囲まれながら、様々な方向に目と体と心に向け、体感し、傷つき乗り越え、学び、知らないうちに一本のハッキリとした「路」ができてあがつていた。

雲もその中にいる時は霧としか感じることもできず、虹も同様で、光を光と認識できる力は、なかなか簡単にはつかなかった。離れた視点を持つことで見えてくることを外国での生活、そして地震が教えてくれた。自立するということは、他を認めること。自らがひたすらに照らされ、見守られ生かされていることを実感すること。この「光さす路」の中で、僕は様々な笑顔と涙に出会い歩んできた。そしてこれからも様々な出会いを繰り返していくだろう。この曲の中には本当に忘れたくない温かい思いがたくさん詰まっています。この機会を与えてくださった敬和学園大学の方々、友人たち、在校生の方々、そして何より両親と家族に心からの「ありがとう」を贈ります。

ps.「先生、本当にお腹が痛かったです…。」



勝又さん（左）の演奏にあわせて歌う長澤さん（右）

第十二回 卒業式と卒業謝恩会のご報告

「敬和学園大学第十二回卒業式」が、去る三月十七日(金) 聖籠町民会館で行われ、一七名が希望に胸を膨らませて社会へ巣立ちました。

前奏が鳴り響いた後、厳肅な雰囲気の中で卒業式が始まりました。延原宗教部長による聖書朗読とお祈りの後、新井学長から卒業生一人ひとりに「卒業証書・学位記」が手渡され、すべての卒業生と握手が交わされました。続いて、学長から卒業生諸君に対し、「収穫のときに、畑に落ちた穂まで拾ってはならない。貧しい人びと、在留異国人などの分としてとおおけ、という戒めがある。ボランティアの人生を生きよ。」との式辞が贈られました。

KEIWA Choir (本学聖歌隊) と地元のコラス・グループによって結成されたハレルヤ・コラス、来賓のみならずからのご祝辞、多くの祝電等が披露され、そのすべてが卒業生のこれからの人生への



KEIWA Choirによるハレルヤ

はなむけとなりました。

それに応えるように、卒業生代表の二村稔さんが「社会に出て、自分を見失ってしまつた時にも、敬和で培つた英知をもとに四年間の成果を社会で証明していきたい。そして、信仰と希望と愛に生きる柔らかな心を持った人間として歩んでいきたい。」と力強く答辞を述べました。



今年度は、成績最優秀者として二村稔さんと大須賀悠さん、卒業表彰者として大江寿賀子さん他五名が表彰され、それぞれ副賞が贈られました。そして卒業生を代表し、二村稔さん(卒業準備委員長)から大学に卒業記念樹のシタレザクラ(三本)が贈呈されました。

卒業式の後、新潟市内のホテルに会場を移して「卒業謝恩会二〇〇五」が行われました。これは卒業生からお世話になった保護者の方々並びに大学教職員への感謝の気持ちを表すもので、後援会のご協力を得て開催されました。卒業生たちはお世話になった教職員を囲んで楽しかった大学生活を思い起こし、時間を忘れるほど会話がはずむ会となりました。

卒業準備委員会より

卒業準備委員長



二村 稔

卒業準備委員会は、昨年十月に藤巻美穂さん、大歌麻紀さん、私(二村稔)、内山聖子さん、佐々木美佳さんの五人(写真左から順)で活動を始めました。活動は、卒業アルバム作成と卒業謝恩会の企画・実施が中心でした。

アルバムは個人写真とゼミ写真、四年間の学生生活、ゼミや行事、クラブ写真など様々な写真を集め、掲載する枚数や構成を近年のアルバムを参考に私たちの個性を付け加える形で見やすくレイアウトしました。

卒業謝恩会では、事前に出席していただく来賓や保護者の方々、大学の教職員の方と卒業生の人数を把握し準備を進めると共に、当日の司会進行を務めました。初めてのことでもとても緊張しましたが、教職員の方々や後援会、同窓会のご支援、ご協力により盛会のうち無事に幕を閉じることができました。

大学生活の最後にこうした大変貴重な経験をさせていただいたことに感謝を申し上げます。



卒業生から

飛び込む勇氣



英語英米文学科 卒業
鈴木 裕美子

敬和学園大学では多くの人々に出会い、そのすべてが、私の人生に少しずつ影響を与え、自分が日々成長してきたことを感じます。大学在学中の杉村先生との勉強会とイギリス留学は、特に貴重な経験でした。

入学して間もなく始めた杉村先生との勉強会を通じて、私は、一つの文学作品が幾多の読み方がされるように、私の目の前に広がる世界を多角的に見られるようになりたいと思えました。そうすることで、人生に対して強い姿勢で臨めると思っています。

そして、約四ヶ月間のイギリス留学は、私に自信とかけがいのない友人たちとの出会いの場を与えてくれました。私は、もっと多くの人と関わり、もっと人生を知り、人生を楽しみたいと思えました。

私にとって、大学の外に広がる社会は「大洋」であり、未知なものです。どこまでも続く大海原には魅力的なことがたくさんあるでしょう。この先、時には不安に襲われ、胸に抱く希望を見失うこともあるでしょう。でも、どんな困難が待ち受けていようと、私には支えてくれる人々がいることを認識した今、力強く「大洋」に飛び込む気がします。先生方、職員の方々、友人、家族、私を支えてくれる人々のためにも、私は失敗を恐れずに泳ぎ続けたいと思います。いつか私の周りの人々を幸せにできる人物になる日まで。ありがとうございました。

旅立つ前に



国際文化学科 卒業
大須賀 悠

気がつけばあつという間でした。さまざまな人と出会い、いろいろなことに挑戦した四年間でしたが、それを一言で形容するなら、「刺激的」という言葉がぴったりだと思えます。授業はもちろんですが、サークル活動や、海外旅行、留学生との付き合いなど、「目からウロコ」体験の連続でした。しかし、なんとと言っても一番刺激的だったのは、そうした体験を通して出会った人々です。

大学に入ってから、私はいろいろな人と出会う機会に恵まれました。学校の中では、先生方、友達、留学生たちに加え、新発田の人たちとも交流する機会がありました。大学の外でも、いろいろな講演会や学習会、さらには海外で、普段なら会えないようなさまざまな、国籍、人種、年齢の人達と会うことができ、交流できました。

こうした色々なバックグラウンドをもつ人たちと出会えたことが、四年間での何よりの財産だと思えます。こうした出会いを通して、私は常に「刺激」を受けてきました。そのたびに、自分の小さな世界は壊されて、少しずつ大きくなってきたのではないかと感じています。今後は自分が人に刺激を与えられる人間でありたいと思います。

今、私は出会ったすべての人に感謝しています。あなたたちと出会えて本当によかった。ありがとうございました。

四年間は人生の凝縮



国際文化学科 卒業
金 錦玉

私は社会人になってからの大学生で、しかも留学生ですので、他の卒業生とは一味違った立場で卒業します。だから喜びも余計にわき出てきて、この四年間の出来事が走馬灯のように頭の中を駆け巡ります。

私の大学生活の中でひそかに努力したことを報告したいと思います。一つ目は、キリスト教の講義を受けて日本の教会に興味があり、さまざまな教会を訪ねたことです。東京の聖イグナチオ教会にも行き、その重厚感を味わい、本当に驚きました。二つ目は「日本文化論」の講義に出てきた良寛さんを詳しく知るため、和島村にある「良寛の里わしま」を訪れ、丹念に見学し、書道体験し、充実した一日を過ごしました。三つ目は、オーストラリアにいる知人を訪問し、留学生の生活を垣間見たことです。

大学の行事も数多くありましたが、ボランティア活動やゼミでの討論などが特に印象に残っています。何よりも一番は、文学的書物を読んで自分なりに意見を持って、それを日本語で文章にまとめあげる…、ある日気がついたら、そんなことが自然とできるようになっていたことです。そんな自分自身にびっくりしています。

この貴重な経験を生かして別の角度からもう一度社会にチャレンジしてみます。もちろん日本と韓国の架け橋になることが私に課せられた責務だと思っています。



英語英米文学科卒業
小川 徹

教職課程の四年間を振り返って

私は、中学生のころから英語の教師になりたいと思っていました。そして、敬和学園大学に入学し、教職課程の勉強をがんばることで、自分の夢に近づけるのだと期待していました。

しかし、思っていたよりも現実には厳しかったのです。教師になるということがどれだけ大変なことなのか、どれだけ責任のある職であるかということ、授業を通じて理解しました。二年生の妙高宿泊研修、そして新発田市立東中学校インターンシップに始まり、三年生の介護等体験実習、聖籠町立聖籠中学校での教育実習と学年があがるたびに教職課程の生活は過酷さを増していきました。四年生になり自分の母校へ教育実習に行くことで、自分が出会った先生方はみんなこういう苦しい生活を経て先生になつてきたのだなと実感できました。

教職課程の中で、特に三年生後期からしばらくは、アルバイトとの両立に苦しみましました。自分の中でいろいろな気持ち葛藤して、立ち止まってしまう時期もありました。苦しい時には仲間たちが本当によく支えてくれました。一人でずっと苦しんでいたら、どこかでつぶれてしまっていたかも知れません。そんな日々を積み重ねることで私は強くなれたと思います。

教職課程は確かに忙しくて大変ですが、本当にそれだけやりがいがあり、苦しい課

題を終えた後の充実感は最高でした。教職課程の四年間は私の大学生活の中でかなりのウエイトを占めていました。うまくいった時期もあれば、失敗続きの時期もありました。本当にいろいろなことがありました。敬和学園大学での四年間は私の大きな財産になりました。こうして、四年間の教職課程を無事にやり遂げられたのは、自分のがんばりだけではなく、一緒にいた仲間たちがあらゆる面で支えてくれたからだと強く思います。大学の仲間たちには本当に感謝しています。感謝してもきれないくらいです。みんなありがとう!!

ご指導くださった先生方には迷惑をかけたばかりでした。本当に四年間ありがとうございました。私はこれからも夢を実現させるために、卒業と同時に新たなスタートを切ります。

2006年度 教員採用選考検査等合格者

卒業年度等	氏名	備考
2000年度卒業	安中 桃子 (旧姓吉田)	新潟県教員採用選考検査
科目等履修生	小山 美弥子	愛知県教員採用選考試験 本国国際文化学科卒業生
科目等履修生	田澤 佳穂利	新潟県教員採用選考検査

長期留学体験記(ノースウェスタン大学)

Sweet Home Iowa



国際文化学科三年
齋藤 海彦

アメリカに留学して本当にたくさんの発見、驚き、喜び、苦労がありました。それから全てをここで書くことができないので、今回は異国で出会った友人たちのことについて書きたいと思います。

異国の地での四ヶ月間、英語を満身に話せない私が無事に過ごせたのは、紛れもなく私の周りの人々からの助けがあったからです。自分の言いたいことが伝わらない、相手の言っていることが聞き取れないという生活は想像以上に厳しいものでした。そんな中で特にお世話になったのが、チューター(そばにて英語を教えてくださいました)のアリッサと、寮のルームメイトであったジョサイアでした。

アリッサは、とてもよきチューターであり友人です。彼女には教科書や英語に関する疑問に答えてもらっただけでなく、日米の習慣やマナーの違いなど生活に関することを話し合ったり、時には彼女が専攻するスペイン語を教わったりもしました。

そして、ジョサイアとはさまざまなお話を話しましたが、その中でも特に印象深かったのは宗教に関する話題です。私が留学したのはノースウェスタン大学は数名の日本人を除けばほとんどの学生がクリスチャンという大学であったため、時々それは私を悩ませる原因となりました。そんな時、私は

二〇〇五年度 英語英米文学科 卒業論文発表会

去る二月三日(金)、英語英米文学科の卒業論文発表会が行われました。毎年取り上げられる内容に変化が見られ、学生と教員が学問について語り合う貴重な場になっています。

今回は六名の発表がありました。佐々木美佳さんの「アースキン・コールドウェルの短篇小説にみるアメリカ英語とアイリッシュの影響について」(北嶋)では、アメリカ南部におけるアイルランド英語の特徴を、実際にコールドウェルの作品の引用を用いて説明されました。宇治理季さんの「ヴェニス社会と人種」『オセロー』における時代背景と諸問題」(金山)では、愛する妻を自らの手で殺害したオセローの悲劇の裏には、ヴェニス社会における人種問題が大きく影響していたのではないかと考



それぞれの努力の成果を発表

察に基づくテキストの誤解が示されました。小黒恵さんと大倉円さんは比較的最近映画化された作品を取り上げ、「『めぐりあう時間たち』における服装とキャラクター」と「プリジット・ジョーンズの日記」に見る現代女性の『美』への意識」(いずれも杉村)という題で、それぞれジェンダーと文化に関する考察が成されました。コミュニケーション・コースの白井佑佳さんの「友人・親友について」(前嶋)では、学内外に広く行ったアンケートを用い、「親友」の定義について考えさせられる内容でした。発表では執筆に際し感じたことを英語で発表されました。コミュニケーション・コースには国際文化学科の学生も参加しています。鷺津肇さんは日本の「モノ作り」に関して自分が注目したトピックを取り上げ、「トヨタの独自性の基盤トヨタの成長を支えたものは何か」(中村)という題で発表されました。

新井学長、北嶋学科長に加え、前学長の北垣先生にもご出席を賜り、それぞれの論文について印象深いコメントをいただきました。問題発見、調査、プレゼンテーションという卒業論文を書くプロセスは大学教育でも重要です。「書く」こと、「伝える」ことをより多くの学生に体験してもらいたいと思います。

※論文タイトル下のカッコ内は指導教員 (英語英米文学科 杉村)



チューターのアリッサさんと図書館にて

敬虔なクリスチャンである彼に対して、クリスト教に対する疑問や質問をぶつけました。彼はそれに対してとても真摯な態度で答えてくれましたし、また逆に日本人の宗教観などを質問してきました。そういった議論の答えが出ることはありませんでしたが、クリスチャンがどういう風に考えているのか、自分の宗教に対する考え方を知ることができました。ジョサイアは、本当に素晴らしいルームメイトであり友人です。もちろん、それ以外の寮の仲間やホスト・ファミリー、先生方にも、ここには書ききれないくらい本当にお世話になりました。また、インド、韓国、タジキスタン、ウクライナ、スーダンなどさまざまな国からの留学生たち、そしてとつてもキュートな三人の日本人の留学生にはとても感謝しています。留学しなければ出会うことがなかった人々との交流はとても楽しく、素敵なものでした。またいつか、アイオワで彼らに会える日が来るのを楽しみにしています

生涯学習

〈2006年度オープン・カレッジ〉

敬和学園大学講演会 (新発田市市民文化会館)

12月 9日(土) 生きる上での希望と欲望 日野原 重明 聖路加国際病院理事

※お問合せ 敬和学園大学総務課 (Tel 0254-26-2394、e-mail kcop@keiwa-c.ac.jp)

敬和学園大学 児童文学のエッセンスを味わう「たのしい川べ」再読

6月 4日(土) 『たのしい川べ』再読 斎藤 惇夫 児童文学者

※お問合せ 敬和学園大学総務課 (Tel 0254-26-2394、e-mail kcop@keiwa-c.ac.jp)

新発田市 「ファンタジー」—大人が読む児童文学— (新発田市生涯学習センター)

6月22日(木) 宮沢賢治と『銀河鉄道の夜』 斎藤 文一 新潟大学名誉教授、
イーハートブ前院長

6月29日(木) 『指輪物語』—二つの英雄譚 杉村 使乃 助 教授

7月 6日(木) 『ナルニア国物語』—キリスト教的世観を中心に 金山 愛子 助 教授

7月13日(木) 『海底二万マイル』—科学と想像力のあいだ 佐藤 渉 教授

7月20日(木) 『はてしない物語』—読むという行為を考える 桑原 ヒサ子 教授

7月27日(木) 『ゲド戦記』—自分自身への旅 松崎 洋子 教授

※お問合せ 敬和学園大学総務課 (Tel 0254-26-2394、e-mail kcop@keiwa-c.ac.jp)

聖籠町 「これからの教育を考える」—さまざまな視点から— (聖籠町市民会館)

10月17日(火) 食育でつくる健康な心とからだ マーク・フランク 講師

10月24日(火) 教育から見たアメリカ 前嶋 和弘 助 教授

10月31日(火) 体験をとらえて学ぶ—教育の原点 伊藤 敦美 講師

11月 7日(火) はじめて学ぶ教育基本法 山田 耕太 教授

※お問合せ 聖籠町市民会館 (Tel 0254-27-2121)

三条市 「差異を越えて」—国際社会の中のわたしたち— (三条市中央公民館)

10月12日(木) ヨーロッパ人を創ることができるか 富川 尚 助 教授

10月19日(木) 東洋思想から学ぶ現代社会における『共生』 趙 晤 衍 助 教授

10月26日(木) 知られざる歴史—近代中国の宗教対立と融和 松本 ますみ 教授

11月 2日(木) 多様な人種と政治—アメリカ社会 前嶋 和弘 助 教授

※お問合せ 三条市中央公民館 (Tel 0256-32-4811)

●科目等履修生の募集

対象 高等学校以上を卒業した方、
又はこれと同等以上の学力が
あると認められる方

授業料 一単位につき、一万円

出願期間 (前期) 四月十二日～二十四日
(後期) 九月二十五日～十月十二日

※受講できる科目、研究生制度等につ
きましては、お問い合わせください。

いずれもお問合せ、お申込みは、

敬和学園大学教務課教務係まで

☎〇二五四—二六一—二五一四

e-mail kyounu@keiwa-c.ac.jp

地域の生涯学習を応援 二〇〇六年度オープン・カレッジのご案内

学生向けの授業とは別に、地域のみなまの生涯学習の一助となるよう、今年も本学や近隣の市町村を会場にして、様々なプログラムを企画・実施します。

今年、春講座として、児童文学や話題のファンタジー作品を文学的視点で読み解いていく講座を、本学と新発田市を会場に

して開催します。また十二月には、聖路加国際病院の日野原先生をお迎えしての講演を行います。日々の生活にちよとした知的好奇心を呼び込む絶好の機会です。

それぞれの日程やお問合せ先は次のとおりです。たくさんの方々からのご参加をお待ちしています。

(広報委員会)

二〇〇六年度 科目等履修生・研究生のご案内

科目等履修生制度とは、敬和学園大学の授業を、社会人や主婦の方などにも、幅広く学んでいただけるように設けられた制度です。ご自分の興味のある、学びたい科目を選択し、受講することができます。学生向けに開講しているほとんどの科目を受講することができます。仕事をもちの方も受講しやすいように、午後七時から開講している科目や新潟駅前教室での科目も用意しております。

また、さらに本学教員の下で希望するテーマについての研究を深くすすめる研究生制度もございます。大学院進学へのステップとしての利用も歓迎しております。

みなさまの参加をお待ちしております。

退職された教員



前国際文化学科教授
安藤 司文

青年よ テーマを持って!!

昔々「青年よ 大志を抱け」と言われました。しかし、私は「青年よ テーマを持って」といいたい。

私は学生時代には、とりとめもなく、いろいろなことをやっていたような気がしますが、しかし、就職して、研究所に配属されると、すぐにテーマが与えられました。それに没頭していくうちに、ひとつのことに集中したほうが、視野が広がり、全体が見え、しかも物事を深く考えることができるとに気がつきました。

このようなテーマの効用に早くから気がつき、これを敬和学園大学での教育のメイン・テーマしようとやってきました。人文学部は人間や社会のあり方を全体的に捉える学問分野ですので、面白く、有意義なテーマはいくらでもみつかります。

生涯追求したいテーマを見つけることは至難の業でしょう。しかし、世の中の動きを観察していると、潮目が見えてきます。そこに網を入れると、すばらしいテーマをすくい上げることができるかも知れません。また、テーマを探すこと自体が面白いことです。楽しんで探してください。

私は本学に赴任し十四年たつて、定年を迎えましたが、再び社会にでて働きたいと考えています。お互いに、慎重にしかも大胆に、社会のために、人のために働きましょう。これからの健闘を祈ります。



前国際文化学科助教授
福王 守

多くのご指導をありがとうございました

このたび、二〇〇六年三月末日をもちまして、敬和学園大学を退職させていただきます運びとなりました。一九九七年四月の奉職以来、九年間にわたり関係者のみなさまに大変お世話になりましたことに、改めて深くお礼申し上げます。

九七年の二月末ころのことでしょうか。引越し先を探しながら、地図を片手に城下町・新発田をさま迷っていたのが昨日のことのようです。春を待つ明るい光の中、静かに雪が舞っている光景を不思議に感じていました。

両親の将来のこともあり、再び東京都の国立市に戻るようになりました。あれからずいぶん多摩の景色も変わりました。少しは自分も成長できたのでしょうか。そんな不安もありますが、今度は一人ではありません。家族四人での再出発となります。これからは加治川の四季折々の思い出を胸に、幼少期に親しんだ多摩川の景色を子どもたちにも伝えてあげたいと思います。

これまで賜りましたご指導への感謝の気持ちを忘れずに、今後とも歩んで参りたいことを、重ねてお詫言申し上げます。お世話になりましたみなさまのご健康と、敬和学園大学の末長きご発展をお祈り申し上げます。



前契約講師
エイミー・ジェンキンス

「さよなら」ではなく、「またどこか」

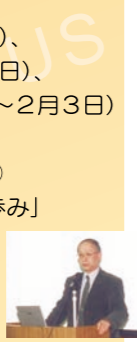
七年ほど前、私は大きな冒険の旅を始めました。日本で英語を教えるという冒険です。親類や友人には、一年間行ってくだりだからと言って来ました。その時は、まさか七年十ヶ月後に新発田を第二の故郷と考えるようになるとは夢想だにしませんでした。だから、敬和との別れは、私にとって日本の「家」との別れでもあるのです。

敬和では、同時に二つの目標をかなえられました。大学で教えることと応用言語学の修士号を取得することです。ほかに、敬和インターナショナル・ボランティア部を立ち上げ、学生と共に海外に行き、バスケットボール部、敬和祭、陸上部に参加し、そして、私の故国イギリスに学生たちを連れて行くなど、さまざまな経験ができました。しかし、もつとも記憶に残る経験は、やはりみなさんとの出会いです。

そして、今年の三月からはもう一つの冒険が始まります。スペインに二ヶ月滞在し、もう一つ教員資格を取得した後、イギリスに戻って大学で英語を教える仕事を探すつもりです。マーク・トウェインも言うように、「私たちは、今から二十年も経てば、自分が実際にやったことよりも、やらなかったことを思い、失望するでしょう。さあ、船の帆を解き、安全な港から旅立つのです。貿易風を帆いっぱいを受けて。探検し、夢見て、発見するのです。」

キャンパス日誌

- 1月**
- 4日 仕事始め
一般入試(A日程)出願(～24日)
一般入試(B日程)、社会人入試(2期)、外国人留学生入試(1期)出願(～31日)、センター試験利用入試(1期)出願(～2月3日)
 - 6日 講義再開
チャペル・アッセンブリー・アワー⑳
説教 山崎ハコネ 講師「新しい歩み」
最終講義 安藤 司文 教授(写真)
「これから私がやること」
 - 10日 卒業論文提出締切日
 - 11日 教授会
 - 13日 チャペル・アッセンブリー・アワー㉑
説教 新井 明 学長 「自分の足で立て」
最終講義 福王 守 助教授
「10年目の卒業にあたり」
敬和キャンパス・ソング「光さす路」お披露目
本学卒業生 勝又 圭介
英語英米文学科4年 長澤千亜里
2005年度エッセイ・コンテスト授賞式(写真)
2005年度学生団体年度内表彰授賞式
2005年度敬和学園大学ケリー・ニューエル奨学金授与式
 - 17日 補講日(～20日)
 - 21日 大学入試センター試験(～22日)
 - 24日 後期末試験(～2月4日)
 - 26日 理事会
 - 29日 一般入試(A日程)
- 2月**
- 1日 教授会
 - 3日 一般入試(A日程)合格発表
 - 5日 春期休暇(～3月31日)
一般入試(B日程)、外国人留学生入試(1期)、編入学試験(2期)
 - 6日 後期集中講義(～10日)
 - 8日 教授会
 - 9日 「新発田プロジェクト2005-2006 加治川編」発表会(まちの駅)(写真)



- 10日 一般入試(B日程)、外国人留学生(1期)、編入学試験(2期)、センター試験利用入試(1期)合格発表
 - 13日 一般入試(C日程)、社会人入試(3期)、外国人留学生入試(2期)
編入学試験(3期)出願(～3月9日)
 - 17日 学内合同企業説明会(69社参加)(写真)
 - 18日 センター試験利用入試(2期)出願(～2月28日)
 - 20日 村上中等教育学校 イングリッシュ・セミナー in 敬和学園大学(～21日、74名)
 - 22日 教授会
 - 23日 KIVサークル 国際ボランティア出発(～3月5日)
- 3月**
- 1日 再試験
三条市オープン・カレッジ①
講師 山田 耕太 教授 「魂のコミュニケーション」
図書館蔵書点検(～3月16日)
 - 2日 センター試験利用入試(3期)出願(～22日)
 - 8日 教授会
三条市オープン・カレッジ②
講師 山崎ハコネ 講師
「高齢者社会がおしえてくれたもの」
 - 9日 センター試験利用入試(2期)合格発表
 - 14日 一般入試(C日程)、社会人入試(3期)、外国人留学生入試(2期)、編入学試験(3期)
 - 15日 教授会
三条市オープン・カレッジ③
講師 青山 良子 助教授
「福祉の人間観-いのち・ひと・生活-」
 - 16日 一般入試(C日程)、社会人入試(3期)、外国人留学生(2期)、編入学試験(3期)合格発表
 - 17日 第12回卒業式(聖籠町市民会館)
卒業謝恩会(ホテル新瀧)(写真)
 - 22日 三条市オープン・カレッジ④
講師 新井 明 学長
「文学から見た西欧と日本」
 - 23日 理事会
 - 25日 センター試験利用入試(3期)合格発表
 - 31日 学年終わり



活躍の場を求めて!! 学内合同企業説明会の報告

去る二月十七日(金)に、三年生対象「二〇〇五年度学内合同企業説明会」が本学体育館を会場に開催されました。当日は昨午を二〇社ほど上回る、六十九社の採用担当者の方々にご出席いただきました。



国際文化学科四年
星山 崇明

「合同企業説明会」とは何か

今回の合同企業説明会は、学内で行われたこともあり、学外の企業説明会よりも気持ちを落ち着かせてじっくりとお話を伺うことができました。私が訪問した企業は、自動車販売会社など五社と、予定より少なめとなりました。企業の人事担当者の方がパンフレットに沿って経営理念、会社概要、採用条件などを丁寧に説明してくださり、内容が濃いものになりました。幅広の職種や職種に興味を持つことは、就職活動をするうえで大切ですので、説明会では、気になる企業のお話を積極的に聞きに行こうと思っていました。この説明会に参加したことが、社会人への第一歩を踏み出すきっかけになり、就職活動に対する熱意や心構えも以前より積極的になりました。今後も第一志望の企業に向けて後悔しないように、自分ができることを前向きに取り組んでいきたいと思えます。

寄付者ご芳名

- 一般
- 河上 正義
 - 村山 綾子
 - 品田 孝
 - 脇本 武司
 - 東中通教会
 - 東中通教会 壮年会
 - 東中通教会 婦人会
 - 見附教会
 - 新潟信濃町教会
 - 新津教会
 - オレンジ会
 - 敬和学園大学 後援会
 - 新井 明 3
 - 新田 和子
 - 長谷川 義水
 - 小沢 恵子
 - 丸山 仁史
 - 呉 賢欄
 - 田中 正範
 - 小林 徹



本学にお寄せくださった皆さまの支援・ご厚意に心より感謝申し上げます。

学事予告

- ◆四月
- 一日 学年始め
 - 五日 入学式
 - 五日 新入生保護者ガイダンス
 - 六日 後援会総会
 - 六日 一年外国語ガイダンス
 - 六日 プレイスマント・テスト
 - 六日 四年ガイダンス
 - 六日 健康診断(七日まで)
 - 七日 二・三年ガイダンス
 - 七日 一年ガイダンス
 - 十一日 新入生歓迎公開学術講演会
 - 十一日 履修相談日
 - 十二日 教科書販売(二十八日まで)
 - 十二日 前期講義開始
 - 十二日 履修登録期間(十八日まで)
 - 十四日 学費前納入最終日(二十四日まで)
 - 十八日 履修登録票提出期間(十九日まで)
 - 二十日 新入生オリエンテーション(二十一日まで)
 - 二十日 履修登録確認期間(五月八日まで)
- ◆五月
- 二日 創立記念日振替休日
- ◆六月
- 三日 スポーツ大会
 - 十六日 留学生の集い
 - 十九日 創立記念日
 - 二十八日 敬和ボランティア・デイ